

日本産業衛生学会東海地方会

地方会ニュース

発行所 東海地方会ニュース編集事務局
〒541-0056
大阪府大阪市中央区久太郎町2-1-25 JTBビル7F
株式会社 JTB コミュニケーションデザイン
ミーティング&コンベンション事業部内
FAX: 06-4964-8804
発行責任者 齊藤 政彦

題字 皿井 進筆

巻頭言

拘り

独立行政法人労働者健康安全機構 愛知産業保健総合支援センター 副所長 大久保 克 己



謹んで新春のお慶びを申し上げます。

昨年は、疫病により経済活動が困難になるという、社会システムそのものに大きな影響が発生する事態を経験しました。

本年は、希望が持てる一年になることを願うばかりです。

私は現在、愛知労働局からの出向で、愛知産業保健総合支援センターの副所長として勤務しています。

私は、1993年に労働基準監督官に任官しました。それ以前は、民間の作業環境測定機関で作業環境測定士として勤務していました。その頃、いつも心に引っかかっていたことは、作業環境測定結果が、第2・第3管理区分（作業環境に改善の余地がある、又は、適切でない。）に評価される作業場であっても、次の作業環境測定のタイミングである半年後に何ら作業環境改善されていないということを経験したことです。

その作業場では、生身の人間が働いていて、その人には、その人を大事に思っている家族もいるのに、なぜ、作業環境改善されずに放置されているのか、そのことが、心に引っかかっていました。

当時、若かった私は「それならば、事業場を指導できる仕事に就こう。」と思い、労働基準監督官に任官しました。

いくつかの勤務場所を経験し、2000年から愛知県

内の労働基準監督署等に勤務し、多くの事業場にお伺いしています。

2019年4月から、愛知産業保健総合支援センターの副所長を務めています。

愛知産業保健総合支援センターでは、産業保健スタッフ向け専門研修や専門的相談を実施しています。

私は、労働安全衛生の究極的な目標は、労働者を採用したときのままの状態で定年退職していただくことと考えています。

人が職業生活を送るのに、職業上の事由で、何らかのリスクを負うことがないように、若いころに心に引っかかったことに、これからも拘り、私の目の届く範囲で、出来る限りの助言指導を続けたいと考えています。



丑

トピックス

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の流行に伴う、 一般の方の予防行動の変化などについて調査を実施しました

愛知医科大学医学部 衛生学講座 教授 鈴木孝太



2020 年の 1 月頃から、世界中で新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) が流行し、会員の皆様も、感染対策など、さまざまな対応に忙殺されていることと思います。流行の拡大に伴い、4 月には全国に緊急事態宣言が発出され、人々の外出や移動などが制限され、さらにマスクの着用や手洗いが強く推奨されるなど、日常生活も大きく変化しました。一方で、COVID-19 に関しては、“Infodemic” といわれるように、大量のさまざまな情報がメディアや SNS を通じて人々に流布し、それによる混乱なども生じました。このように急激に流行が拡大したことによる、COVID-19 に対する人々の認識や、マスク着用などの予防行動の変化、あるいはどのようなメディアから情報を得ていたか、ということをも可能な限り客観的に記述することは、今後の感染症を含むさまざまな健康問題に対する社会全体への対応、特に、情報伝達のあり方を考える上で重要です。

そこで、郵送による調査を、愛知県、東京都、福島県、鹿児島県に居住する 16~89 歳の一般の方 5,450 人を対象に、4 月下旬から 5 月上旬にかけて実施しました。以下、調査結果の概要を説明します。

まず、全体で 3,554 人 (65%) から回答が得られました。特に、東京都では 70%強、愛知県でも 70%弱と、都市部で高い傾向を示し、COVID-19 に対する関心の高さがうかがえました。さらに、通常、この種の調査で、自由記載欄への記載は 30~40%程度のことが多いのですが、今回は回答者の 60%以上が記載しており、また、記載内容も多岐にわたり、こちらからも、社会における大きな問題であることがわかりました。

そして、COVID-19 に関して不安を感じている人は 98%程度とほとんどすべての人であり、そのうち 30%弱の人は恐怖も感じていると回答していました。予防行動について、4 段階で尋ねたところ、手洗いについては、昨年「かなりしていた (51%~75%)」「いつもしていた (76%~100%)」と回答した人が 63%であったのに対し、今年は 96%とほとんどの人が該当し、

マスクについても同様に 28%から 94%と急激に上昇しました。

また、最も COVID-19 についての情報を得ている頻度が多かったのはテレビで、毎日 1 回以上情報収集している人が 90%以上であり、次にインターネットで 70%強、新聞は 60%弱となっていました。一方、情報への信頼度が高かったのはテレビと新聞で、50%弱の人がかなり信頼していると回答していました。

これらの項目に加えて、ヘルスリテラシーや昨年のインフルエンザ予防接種の有無、過去 1 ヶ月の風邪症状の有無などについても調査していますので、今後、COVID-19 に対する恐怖や予防行動の変化が、どのような因子と関連しているのかを検討していくつもりです。

なお、調査結果の詳細については、共同研究者の後藤あや先生 (福島県立医科大学) の Webpage (<https://aya-goto.squarespace.com/covid19-joint-survey>) で公開中です。ぜひ、ご覧ください。



新型コロナウイルス (COVID-19) という『未知』との闘い

本田技研工業株式会社 鈴鹿製作所 健康管理センター 産業医 道井 聡 史

本田技研工業 鈴鹿製作所で産業医をしている道井と申します。このたび、新型コロナウイルスへの弊社の対応について報告する機会をいただき感謝申し上げます。

時系列：

・2020年1月 厚生労働省から中国にて原因不明の肺炎発生が発生したとの報道を受けましたが、情報不足に悩まされました。ヒトからヒトへの感染の明らかな証拠がない段階で海外渡航を禁止するまでの発信には至らず、私からは渡航者への注意喚起の内容に留めておりました。武漢のロックダウンにより帰国困難者が発生したことで1月下旬に中国への渡航中止が会社として正式決定されました。この当時は、不確かな情報の中で医学的な決断を下すことの難しさを実感していました。

・2020年2月 東京を中心に国内でも感染例が出はじめ、全国ニュースで新型コロナウイルスの情報が飛び交いましたが、三重県内では発生はなかったため気持ちはまだ落ち着いていました。安全衛生委員会の衛生講話では新型インフルエンザ等の資料を用いてBCP確認などを推奨していました。

・2020年3月 東海地方での感染報告が増えつつあり流行を身近に感じる中、感染者への社会的制裁を目の当たりにし、自分自身への健康不安が急速に強まっていた頃です。あとから振り返ると、コロナ鬱になっていたのだと思います(この件についてはまた別の機会に…)。新型コロナウイルスに対する恐怖が増大と縮小を繰り返し、その揺れ動く気持ちに悩まされながら社内での対策資料を作ったことを記憶しています。具体的な対策としては総務部門と協議の上、全従業員の出勤時の体調チェックを開始しました。また、テレビモニターを用いて感染予防の啓発活動も開始しました。産業保健活動は産業医による面談をオンラインによる一部切り替えや産業看護職による対面保健指導を中止しました。

・2020年4月 健康診断の継続について苦慮していた頃です。定期健診は延期可との厚生労働省通達は出ていましたが当事業所は特殊健診が非常に多いため、4月中旬までは健康診断時の体温測定・マスク装着・手洗いを行いつつ健康診断を継続していました。感染防止対策下での健診継続を目指しましたが、4月17日の

全国一律の緊急事態宣言を受けて全ての健康診断を中止せざるを得ない状況となりました。中止延期すると、遅れを挽回するのが後々大変になる中での苦渋の判断でした。

・2020年5月 連休明けに三重県の緊急事態宣言解除を受けて、健康診断を速やかに再開しました。その頃には出勤時の体調確認や次亜塩素酸による毎朝の清掃、在宅勤務の導入といった職場環境の変化とともに、面談室や健診会場にビニールの壁が設置されるといった物理的対策も進みました。流行の第一波を乗り越えたことで気持ちに余裕が生まれた頃です。

・2020年8月連休中および連休後には事業所内でも感染者が出ましたが、リスクマネジメント下のフローに則り、感染者個人・現場・マネジメント領域も迅速に対応を図り、全従業員数8,000名の中でのクラスター発生やパニック状態を抑えることが出来ました。また、感染者が出たことへの個人の特定、その個人に対する誹謗中傷は幸い聞かれず、比較的冷静に受け止められたと感じております。

やや駆け足となりましたが、以上が当事業所の対応です。今回の件で緊急時には平時での様々な課題が浮き彫りとなることを痛感しました。しかしながら、在宅勤務やオンライン会議などIT化が一気に進むといった良い職場環境も生まれ、働き方にも大きな変化ができました。

今回の私の体験談が今後の皆様の産業保健活動に寄与できれば幸いです。是非とも皆様からのご意見ご感想をお待ちしております。



リレーエッセイ

新型コロナへの対応から学ぶこと

静岡労働衛生コンサルタント事務所 赤津 順一



新しく始めましたリレーエッセイの口火を切らせていただくことになりました。

今年の安全衛生を取り巻く話題といえば、新型コロナウイルスの問題を避けて通ることはできません。この流行は、社会を

大きく揺さぶり変化を要求しました。

国の要請による移動や活動の自粛が行われ、テレワークを導入せざるを得なくなる中で、これまで大切とされてきた、対面でのコミュニケーションが行いにくくなりました。この状態はまだしばらくの間は継続が求められることは確実で以前と同じ働き方に戻ることはないかもしれず、新しい生活様式への適応が迫られています。私は、労働衛生コンサルタント、嘱託産業医の仕事と健康診断対応を中心とする労働衛生機関の医師としての仕事を行っていますが、日常活動でどのような課題が発生したのかを考えてみたいと思います。

ひとつは、働き方の違いを意識した対応です。

人との接触を避けられない仕事と、テレワークだけでも十分な成果を上げられる事業では取りうる対策が大きく異なります。ひとつの事業者の中でも管理部門と製造部門の違いなどで対応の方策が異なります。事業者の仕事全体を想像し、仕事に応じたテラーメイドの対応をこれまで以上に意識する必要があります。

二つ目は、準備期間を置かずに入社した新しい生活様式では、健康課題への準備や配慮が十分でない可能性を意識する必要があることです。

例えば、テレワークを開始したけれども、仕事の進め方の準備、成果の評価の仕方、教育訓練の計画などが後回しであることもよく見られました。入社時教育が遠隔で行われ、緊急事態宣言解除まで事実上の自宅待機となった新入社員から職場適応の相談があったり、人事異動後の社員から、異動先の仕事をこなせない、職場になじめないことで体調を崩したという相談もありました。健康診断の問診の際に、昨年にはなかった腰痛の訴えをする人たちに、座卓やこたつでテレワークをしているという話をよく聞きました。会社での作業や作業環境の課題は職場巡視で指導できていましたが、テレワークでは騒音や室温湿度などの条件や、PC、

椅子や机などに由来する作業姿勢などの人間工学的対応は自己責任となり配慮が行き届きにくい状況が occurred。また、共働き家庭で夫婦とも在宅勤務となり、作業場所の調整に難渋した事例や、通常以上に自宅等にいることで発生する夫婦や親子間の関係など、これまでは想定されてこなかった対応すべき健康リスクが表面化しました。

三つ目は、事業者や国は、流行による様々なダメージを取り戻すために早急に事業を立ち上げ極力元の状態に戻したいという思いがありますが、医学的事実とどのように整合させるかの視点です。

事業者は時に過剰な対応を志向したり、逆に不用心と思えるほどルーズな対応をしたりすることがあります。コロナ感染の陰性証明をするための無症状の従業員への新型コロナ感染検査の実施については、産業保健職が受ける相談の中でも課題のひとつです。検査のメリット・デメリットの周知及び陽性者の発生も想定した準備が必要ですが、検討されていないこともよくあります。

産業保健職は、医療の知識に加え、社会医学的な視点を有しています。ともすれば社会活動と健康管理のみに集中しがちな対応ですが、労働衛生の3管理に立ち返り、作業環境管理、作業管理の視点も忘れず、現場の課題を受け止めることで対応に貢献できるものと考えます。今回は、名古屋市立大学、榎原 毅先生よりしくお願いいたします。



教室紹介

静岡県立大学看護学部公衆衛生看護学領域の紹介

静岡県立大学看護学部公衆衛生看護学 教授 畑中純子



静岡県立大学法人静岡県立大学は静岡薬科大学、静岡女子大学、静岡女子短期大学を統合した総合大学として昭和 62 年に開学し、看護学部は平成 9 年に設置されました。その後、平成 13 年には大学院看護学研究科

(修士課程)、令和 2 年から博士後期課程がスタートして、看護学を体系的に学ぶ体制が整いました。公衆衛生看護学領域は今春から教員 3 名が入替わり、7 名で教育および研究に取り組んでいます。昨年までは産業看護を専門とする教授等がおらず産業看護の授業時間は限られていましたが、今年度から産業看護を専門とする教授が着任しましたので今後は少しずつ充実させていきたいと考えています。

平成 28 年には静岡県立大学短期大学部の看護学科が廃学科となり、本学部の定員が増員され、現在は 1 学年あたり 120 名の学生が学んでいます。保健師課程は全員選択制となっており、毎年 100 名程度の学生が選択しています。実習は 2 年生で公衆衛生看護基礎実習を 1 単位 (5 日間) 必修で行い、4 年生で公衆衛生看護学実習 I、II を 4 単位 (計 20 日間) 選択で実施します。公衆衛生看護学実習 I は地域診断を中心に行い、

公衆衛生看護学実習 II は行政 (保健所、保健センター) に約 60 人、産業に約 25 人、学校に約 15 人と分かれて実習しています。

近年は患者の在院日数は短縮され、自宅を含めた地域で療養する人たちが増加しています。療養者本人のみならず家族を含めて地域の資源をつないで地域で包括的に支援していくことや疾病の予防・健康の保持増進を可能とする環境づくり、健康的な社会の醸成という視点を学ぶことは、生活者としての対象者をケアする看護職には必要なことです。また、わが国の人口の半数以上が労働者であり、職業性疾病等の予防ならびに健康的な労働生活を支援することは対象者の QOL を向上させ、地域全体の健康度を高めることとなります。公衆衛生看護学領域では 1 次予防から 3 次予防までさまざまな場で生活する人々を包括的にサポートできるように行政看護、学校看護、産業看護を学べる科目構成としています。保健師課程を選択しない学生も含めて看護全体のなかで公衆衛生看護をとらえ、学生が対象者への連続した健康支援を行えることを目指したいと考えています。

次年度からは大学院看護学研究科の広域看護学専門分野に公衆衛生看護学領域が立ち上がる予定です。一緒に公衆衛生看護や活動を考え、深めたり広げたり発展させていきませんか。



受賞記事

日本産業衛生学会 2020 年度奨励賞を受賞して

ジヤトコ株式会社 統括産業医 西 賢一郎



2020 年度の日本産業衛生学会奨励賞を頂きました。新型コロナウイルスの影響で、学会自体が Web 開催で、学会誌に記念講演の抄録が掲載される「こそっと受賞」でしたが、推薦いただいた斉藤政彦先生や東海地方会の

先生方には大変お世話になり、その恩返しを含め報告いたします。

産業医科大学を 2003 年に卒業し、2005 年より新日本製鐵株式会社 (当時) 君津製鐵所で産業保健の世界に飛び込みました。君津修練は産業医の基礎を宮本俊明先生より叩き込まれ、非常に中身の濃い「君津ライフ (君辛い歩)」でした。2006 年から 2 年間は大学の労働衛生工学研究室で粉じんの気管内注入や吸入ばく露による肺等生体への影響を学びました。私は、炎症バイオマーカーの一つである、CINC (好中球遊走因子) の分

析を担当し、田中勇武教授からよく「ばかちゃん！」とミスだらけの私に対し愛情のこもったご指導を頂戴しました。

「辛苦 (CINC)」の卒後修練も終わり、2008 年より静岡県で産業医として勤務します。私は「社員と顔の見える関係」をモットーに、主に飲みにケーションを駆使しいろんな社員と交流を図り産業医活動を進め、コロナ禍でもオンライン飲み会としてそれを継続しています。

一方で、産業保健スタッフのスキル向上に、静岡県東部地区を中心に研修会・交流会の企画を、学会では 2010 年に評議員になり、第 23 回全国協議会、第 92 回総会の実行委員長、本部中央選管委員の経験、ダイバーシティ推進委員会の委員長を担当し、全会員が関わる学会活性化の仕掛けを考えています。巽あさみ先生との第 25 回日本産業ストレス学会の開催も貴重な経験です。

九州宮崎出身の私が東海地方会にお世話になり 12 年、先生方よりご指導を賜り、今後もさらに精進したいと思っております。

2020 年度 産業衛生技術部会奨励賞受賞報告

浜松ホトニクス株式会社 総務部厚生グループ 専任部員 菅 沼 要一郎



この度の産業衛生技術部会奨励賞受賞は、ひとえに東海地方会の先生方によるご指導の賜物と、心より感謝申し上げます。

当受賞は、自身の業務を振り返ると共に、今後の仕事への励み、学会への貢献を新たに確認する

良い機会となりました。大変ありがたいことに、今でもお祝いのお言葉を頂戴することがあり、その都度、想いを新たにしています。

私は、2001 年に北里大学医療衛生学部を卒業して浜松ホトニクス株式会社に入社し、一年間に亘る社内の事業部研修を経て、現所属である総務部へ、勤務先は中央研究所に配属となりました。本部機能として会社全体の安全衛生管理を推進すると共に、製造現場とは異なる試験・研究を行う事業場の安全衛生事務局と衛生管理者を担ってきました。2017 年に本社事務所へ

勤務地異動した後は、本部機能に特化しており、配属後の 18 年半の実務としては、各事業所の化学物質リスクアセスメント・OHSAS18001 (ISO45001) ・ストレスチェックの新規導入、健康診断、感染症対策、職長教育等の様々な教育、健康経営、子会社の安全衛生管理水準の向上、法規制管理等に努めてきました。特に化学物質については、会社全体の管理対象として約 8,000 物質の使用があり、少量多品種の製品製造にあたり、多様な取り扱いに対する管理を日々勉強しております。会社組織の一員であると同時に、産業医の先生や 7 人の保健師と共に、労働衛生管理の推進者 (2015 年に労働衛生コンサルタントを取得し、継続勉強中) の立場として、事業場の実情に即した管理活動の難しさを日々実感しています。

奨励賞受賞は、今後の取り組みへの叱咤激励と受け止め、益々研鑽を積んでいきたいと考えておりますので、これからもご指導・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

会 員 の 声

コロナ禍の恩恵

名古屋市立大学 大学院医学研究科 環境労働衛生学 准教授 伊藤 由起



いつもご指導を賜りありがとうございます。皆様はいかがお過ごしでしょうか？東京オリンピックで盛り上がると思われた 2020 年は、新型コロナウイルス感染症の流行によって社会全体に少し閉塞感が立ち込めているように感じます。しかし最近では、新型コロナウイルスとの付き合いの長期戦を見込み、当初は中止や延期が多かったイベントも、新しい生活様式に対応したオンライン開催が多くなってきました。

私の専門は環境化学物質の毒性、リスク評価ですが、この時世ならではの恩恵を多数受けていると前向きに捉えております。それは、これまで東京等でしか開催されなかった講習会、研修等を気軽に聴講できることです。特に、毒性病理のトレーニング(ウェブ上でスライドの鏡検可能)、栄養疫学の講習会、臨床疫学の講座は

オフライン講座であればおそらく受講しなかったものです。自身の専門の周辺知識の向上に大いに役立ちました。また、現在はバーチャル国際学会に参加中です。米国太平洋標準時間に合わせた昼夜逆転生活と日本時間でこなさなければいけない実験との両立に不安を感じておりましたが、リアルタイム配信以外にオンデマンドで受講できることも分かり、これも大変嬉しい事態でした。英語が得意ではない私には、聴き直せるというのは非常に助かります。このような状況で欲張りすぎたため、私は少しキャパオーバーですが、皆様も是非このような恩恵を十分にご享受されてみてはいかがでしょうか？

ちなみに、私が事務局を務めている東海地方会産業衛生技術部会においても、毎年開催している企画を本年度はオンライン開催することとなりました。このニュースがお手元に届く頃には既に終わっておりますが、多くの方にご参加戴けることを期待しております。

ご挨拶

三菱ケミカル株式会社 愛知事業所 産業医 横山 麻衣



三菱ケミカル株式会社 愛知事業所で産業医をしております横山麻衣と申します。2012年に大学卒業後、静岡県で3年間の臨床研修、産業医実務研修センターで2年間の修練を経て、2017年から現職場に就職しました。

現職場は愛知県豊橋市の住宅地内にあり、炭素繊維や中空糸、溶融繊維などの高機能付加型の化学繊維・膜、これらの加工製品を製造する工場です。約1000人程度が従事しており、一部工場は4組3交替で稼働しています。主には産業医1名、看護師1名で従業員の皆さんの健康支援を行っています。

入職時、保健室には言わばボスのようなベテラン実務担当者がおり、転倒労災防止の取り組みに力を入れ始めたところで、大変活気のある雰囲気でした。看護師も臨床との変化に戸惑いながら熱心に尽力されており、弊方も微力ながら推進に貢献すべく奮闘し、とても楽しく働いていました。

そんな折、実務担当者が大病し、約半年の闘病の末亡くなりました。闘病期間中、看護師と私は今こそ両立支援、と意気込み、専門職ならではの支援につながったものもあれば、制度上の問題や家族の受け入れ、主治医とのかかわりなど、限界を感じる場面も多くありました。喜んだり、憤ったり、泣いたり、短いながら濃厚な期間でした。少しでも彼の想いに寄り添えていたらと願ってやみません。

人員減に伴う負担増、ベテラン職員の不在、心のよりどころの喪失の中、看護師と2人で行った活動といえ、最低限の法定業務と相談に来られた従業員や管理者1ケースごとに真摯に対応することで精いっぱいでした。自身の力不足に直面し元気がなくなることも多くありましたが、社内他事業所の産業保健スタッフや地方会の先輩方のご活躍、そして同期に支えられ、何とか通常業務が安定してきたところです。

今年度からメンバー強化もあり、今後はより広い視野で活動できるといいなと思っています。引き続きご指導、ご鞭撻の程よろしく願いいたします。

気が付けば 20 年…、これからの 20 年

日本たばこ産業 (株) 東海支社 人事労務部 保健担当 畑 中 三千代



JT 東海支社保健師の畑中三千代と申します。気が付けば、JT に勤め 20 年…、入社当時は 2 人に 1 台の PC を使用し、健診結果出力やデータ加工など、生活習慣病対策を中心に活動していました。今では、多様な働き

方の推進、新型コロナウイルスの影響等により、PC も 1 人 1 台となり、業務内容は、産業保健に加え、健康経営推進など、産業看護職の専門性も広がりました。また、担当エリアは、愛知・岐阜・三重・静岡・富山・石川・福井の 7 県で、社員へお会いするため、電車で揺られ片道 4 時間ということもあります。健康診断事後支援や健康教室開催の時期は、家で過ごす時間より電

車の中の時間の方が長い時も……。しかし、こちらも今ではリアルにお会いすることが難しくなり、ICT をフル活用した面談や健康教室となっています。オンライン支援では、カメラやマイクの性能により表情や声色などの情報を得ること・配信することが左右されるので、何色の服を着たら印象悪くならないか？話やすい雰囲気は伝わるか？など、考え準備しています。

この 20 年、社会や会社の変化に適応し(と思っているのは私だけかも)、続けてこられたのも、同僚や上司のおかげです。また、学会へ参加し、先生方との出会いに恵まれたことも大きく、大変感謝しています。これからの 20 年、ご縁を大切に、柔軟に働き続けることができるよう頑張りますので、今後ともよろしく願いいたします。

入会のご挨拶

ヤマハ発動機 (株) 人事部 安全健康推進グループ 産業医 藤 本 俊太郎



はじめまして。この度、日本産業衛生学会・東海地方会に入会いたしました、ヤマハ発動機 (株) 産業医の藤本俊太郎と申します。浜松医大在学中より産業医学に興味があり、卒後の初期研修は日本でも数少ない産業保

健研修を実施している千葉労災病院で行いました。産業保健研修では古河電気工業 (株) 千葉事業所にて 1 か月間の OJT を行って、職場巡視や復職面談、健康診断の事後措置と統計解析、安全衛生委員会での講話など様々なことを経験しました。そこでの経験や指導医の助言もあり、医師 3 年目より産業医活動をスタートさせることになりました。

4 月から約 1 か月半の間、産業医大の産業医学基本講座を受講していました。本来であれば、北九州まで行って多くの仲間たちと共に勉強する予定でしたが、新

型コロナの影響により Zoom を使った遠隔授業となっていました。講義は非常に勉強になるものでしたが、引っ越してきたばかりの新居に 1 人で籠って授業を受けるといってない経験に対し、非常に孤独を感じました。また、肩こりや腰痛、体重増加、飲酒量増加など、最近話題となっているテレワークにおける健康障害を一通り経験いたしました。

ヤマハ発動機は、静岡県西部の磐田市に本社を置く輸送機器メーカーで、主にバイクや船のエンジンを製造している従業員数約 1 万人の企業です。2 名の常勤指導医や多数の非常勤産業医のもと日々業務に邁進しています。しずおか社会医学系専攻医プログラムにも所属し、週 1 日の研究日には浜松医大健康社会医学講座で勉強しています。今後も学会やカンファレンス等の参加を通じて多くのことを学び、社会の皆様に貢献できるように努力する所存です。どうぞよろしく願いいたします。

事務局から

2020 年度総会決議より

1. 第 1 回総会を 11 月 14 日 (土) に Web (Zoom) で開催した。
2. 2019 年度事業報告が行われた。
3. 2019 年度決算報告が行われた。
4. 2021 年度事業計画が承認された。
5. 2021 年度収支予算が承認された。
6. 地方会規約改定案が承認された。

地方会理事会

2020 年度第 2 回理事会

日時：2020 年 10 月 17 日 (土) 10:00~12:00
Zoom 会議

【議題】

- I. 前回理事会議事録 (案) の確認
- II. 協議事項
 - 1) 2020 年度総会について
 - 2) 地方会学会企画運営委員会
 - 3) 2021 年度地方会学会について
 - 4) 過去の記録の収集について
 - 5) 役員選挙について
 - 6) 学術研究助成内規変更案について
 - 7) 次回の理事会の日程について
 - 8) その他
- III. 報告事項
 - 1) 第 31 回日本産業衛生学会全国協議会準備状況
 - 2) 2020 年度地方会学会準備報告
 - 3) 第 33 回産業保健スタッフのための研修会準備状況
 - 4) 本部理事会報告
 - 5) 地方会事務局報告
 - 6) 地方会活動方針検討委員会
 - 7) 学術研究推進委員会
 - 8) 編集委員会
 - 9) 研修会企画委員会
 - 10) 表彰制度推薦委員会
 - 11) 部会報告
 - 12) 職場ストレス研究会報告
 - 13) 各県の活動報告
 - 14) その他報告事項
 - 15) 関連学会研究会開催情報
 - 16) その他

会員状況

2020 年 5 月 1 日~9 月 30 日の推移
(2020 年 9 月 30 日現在)

	愛知県	静岡県	三重県	岐阜県	合計
新入・再入会員	15(3)	3	1	1	20(3)
転入会員	0	1	2	0	3
地方会内転入	1	1	0	1	3
退会会員	-7	-6	-1	0	-14
転出会員	-5	-2	0	0	-7
地方会内転出	-1	-1	-1	0	-3
増減	3(3)	-4	1	2	2(3)
本部正会員	527(6)	225	105	43(1)	900(7)

※()は学生会員を表す

2020 年度日本産業衛生学会
東海地方会選挙結果

1. 会長選挙当選者

斉藤 政彦

2. 代議員選挙当選者 (県別、50 音順)

(愛知県：定数 38)

青山 知高	青山和加子	石川 浩二
市丸麻衣子	伊藤 由起	上原 正道
内山 靖	浦上 年彦	榎原 毅
大神 信孝	太田 充彦	加藤 一夫
加藤 昌志	上島 通浩	川角 美佳
金 一成	栗木 美幸	高畑 真司
小嶋 夏弥	斉藤 政彦	酒井 潔
榊原 洋子	佐藤 博貴	柴田 英治
白石 知子	城 憲秀	巽 あさみ
塚田 月美	内藤 久雄	中元 健吾
七浦 広志	成定 明彦	西谷 直子
平野 貢	松浦 清恵	水口 要平
水谷 聖子	八谷 寛	

(静岡県：定数 19)

赤津 順一	秋山ひろみ	足立留美子
池田友紀子	内野 文吾	遠田 和彦
尾島 俊之	近藤 祥	軸丸 靖章
菅沼要一郎	杉 敏彦	中村美詠子
新島 邦行	西 賢一郎	西島 千晴
三浦 真美	望月友美子	山本 誠
渡井いづみ		

(三重県：定数 9)

北山 勉	後藤 由紀	後藤 義明
酒井 秀精	笹島 茂	高崎 正子
道井 聡史	山口 威俊	吉田 美昌

(岐阜県：定数 3)

井奈波良一	梅津 美香	黒川 淳一
-------	-------	-------

これからの行事予定

第31回日本疫学会学術総会

会期：2021年1月27日(水)～29日(金)
会場：オンライン
テーマ：疫学の新たな展開を求めて

第33回産業保健スタッフのための研修会

日時：2021年1月30日(土) 10:00～11:00
会場：オンライン (Zoom 利用予定)
テーマ：産業保健と地域との連携～働き方の変化、健康課題の変化に対応するために～

第91回日本衛生学会学術総会

会期：2021年3月6日(土)～8日(月)
会場：富山国際会議場
テーマ：これからの衛生学と日本衛生学会の使命

2020年度東海地方会産業医部会懇話会

日時：2021年4月24日(土) 14:00～17:00
(親睦会 17:30～)
場所：ウィンク愛知 1201 会議室
特別講演：現場の活動を社会に還元ー事業所・地域のレベルアップからダイバーシティにー
講師：ジヤトコ株式会社 西賢一郎先生

第94回日本産業衛生学会

日時：2021年5月18日(火)～21日(金)
※オンデマンド配信：6月21日(火)～14日(月)
予定
会場：まつもと市民芸術館・ホテルブエナビスタ
テーマ：全ての人に産業保健の光を



編集後記

2020年はCOVID-19の流行により世界中が大きく変わった一年となりました。学会、地方会もオンラインとなり、私自身もテレワーク、リモート会議・面談等を経験する一年でもありました。今後は新しい生活様式の中での産業保健活動になりますが、既にテレワークによりメンタルに不調を来している社員も出ています。感染予防とともに職場のコミュニケーション教育を職場全体に行う必要性を強く感じています。

メタウォーター(株) 河南

東海地方会ニュース

編集委員長：池田友紀子(キヤノン)
副編集委員長：西谷直子(名古屋大学)
編集委員：赤津順一(日本予防医学協会)
榎原毅(名古屋市立大学)
河南文子(メタウォーター)
後藤由紀(四日市看護医療大学)
近藤祥(聖隷健康診断センター)
榊原洋子(愛知教育大学)
菅沼要一郎(浜松ホトニクス)
城憲秀(中部大学)
山本誠(ヤマハ)

東海地方会事務局

〒541-0056 大阪市中央区久太郎町2-1-25 JTBビル7F
株式会社 JTB コミュニケーションデザイン
ミーティング&コンベンション事業部内
FAX: 06-4964-8804 E-mail: jsoh-tokai@jtbcom.co.jp

印刷・製本

〒675-0055 兵庫県加古川市東神吉町西井ノ口601-1
有限会社トータルマップ
TEL: 079-433-8081 FAX: 079-433-3718